

大学への1MW屋根置き太陽光発電システムの導入

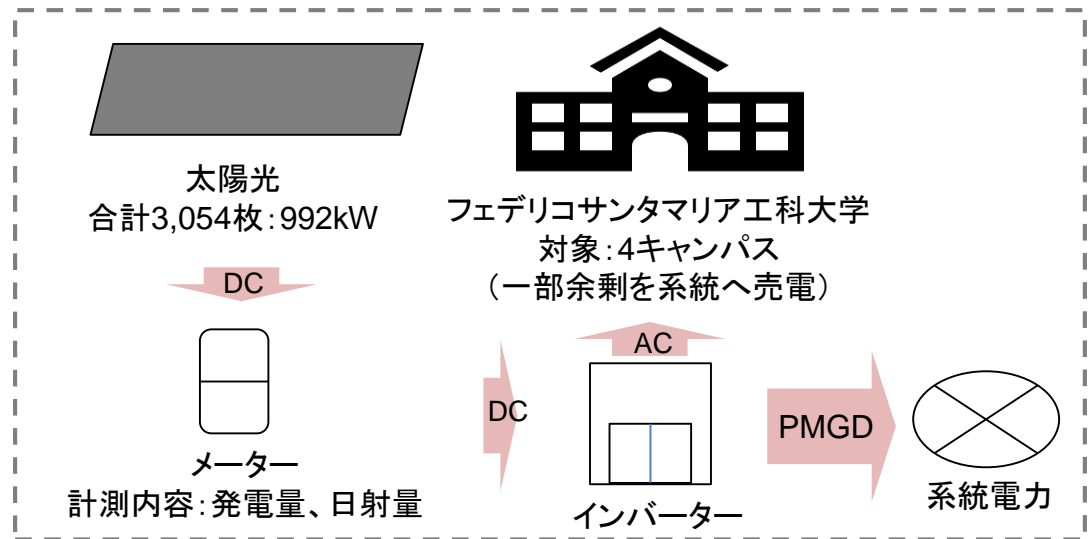
プロジェクト実施者:(日本側)早稲田環境研究所、株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所
(チリ側)MGM Innova Capital Chile SpA

GHG排出削減プロジェクトの概要

チリのフェデリコサンタマリア工科大学の4キャンパス(San Joaquin, Valparaiso, Vina del Mar, Vitacura)に屋根置きソーラーシステム合計992kWを導入し、CO2の排出削減を目的とする。

使用する太陽光発電パネルは、Panasonic株式会社製の太陽光発電パネルを使用する。パネル一枚あたりの出力は325W、公称変換効率は19.7%と業界トップクラスの性能である。

太陽光発電パネルを大学の屋根へ設置後、発電した電力は本大学が自家消費を行い、余剰電力に関してはPMGD(Small Distributed Generation Meansを意味するスペイン語)制度を活用し、共同事業者のMGMイノヴァキャピタルチリが系統電力へ売電する。



想定GHG排出削減量

年間削減量 517tCO₂/年

2030年度までの累積削減量 6,010 tCO₂

JCM設備補助事業実施サイト

